

②研修は日々の地域活動に活かしていますか

普段、グループホームの利用者の無断外出等で、グループホームのことを地域の人に知ってもらっていると、何かあった時に連絡をしてもらえりし、温かく見守ってもらえる。

③どんな西区になったらいいと思うか、「ちょこっとネットワーク」の今後の課題

ちょこっとネットワークの今後の課題は、高齢者数は増加する一方であるから、当たり前であるが、高齢者が住みよい校区、町とは、年齢問わず住みよい町である。そして西区だけでなく、もっと堺市全体、さらには大阪府へと最終的には全国に広げられたらよいと思う。まずは西区で地盤を固めて堺市全体で・・・となったらよいと思う。

(3) C氏 (女性、所属：民生委員)

①「ちょこっとネットワーク研修会」に参加しての感想

ちょこっとネットワーク、高齢者虐待、孤独死などの研修ではリアルな面を見せてもらった。すごく勉強になったが、それより私にとって一番よかったのは地域包括支援センターの方、在宅介護支援センターの方がすごく身近に感じられたことである。

勉強しながら、自分の中で見守りしながら、問題が出てきたときにすぐに地域包括支援センターの人がいるから相談できるという力強さを感じたことが第一である。勿論、ちょこっとネットワークでの情報は自分の中では学べたことはよかったが、身近に感じられることができたのが第一である。

②研修は日々の地域活動に活かしていますか

地域包括支援センターに相談するとすぐ在宅支援センターにも連絡してもらっている。一番最初に私が担当した見守りの方で、問題のある方であったが、福祉課に相談に行ったが、福祉課の人には動いてはもらえたが、私との連携はとれなかった。その反省を踏まえて、もう少し行政の方と、見守りの人と、在宅介護支援センターの人、福祉課の人との連携の必要性を感じた。そういう点で私にとっては地域包括支援センターはもっとも心強い存在である。

③どんな西区になったらいいと思うか、「ちょこっとネットワーク」の今後の課題

わたしの課題としては要介護認定を受けていない方をどうやって見守って行くかを気にしている。認知症のある方で、介護保険サービスを受けていない方で、介護保険サービスを受けるのを拒否している方がいる。そういう人をどうやって見守っていくのか、地域包括支援センター、在宅介護支援センターの方とどうやって一緒に見守っていくか気にしている点である。

(4) D氏 (男性、所属：医療機関)

①「ちょこっとネットワーク研修会」に参加しての感想

勤務している病院の地域医療部の医療福祉相談や、地域の集まり、専門職の集まりなどこれまで8年間担当してきたが、より地域の民生委員、自治会、関係機関の人とのネットワークを拡げてこられて非常に意義があったと感じている。しかし、私自身の課題や、病院自体の課題でもあると思うが、まだまだ地域との連携ネットワークの課題が多く、未だ未開拓の部分がある。ちょこっとネットワーク研修会に参加することで、地域の人との繋がり的重要性がさらに感じられた。

②研修は日々の地域活動に活かしていますか

今までの活動は、点と点の繋がりであったのが、今は線になって、顔と顔の繋がりになって広がってきた。このような繋がりを続けていって、さらに地域の福祉につながっていければよいと考えている。

③どんな西区になったらいいと思うか、「ちょこっとネットワーク」の今後の課題

企画委員会でも話し合ったことであるが、これまでは主として高齢者を中心に見たネットワークであったが、今後は高齢者の方だけでなく、色々な方、幅広い分野の人の対象に広げていくことで、地域の他の対象に分野との繋がりも持って地域の福祉向上に向けて活動していきたい。

(5) E氏(女性、民生委員)

①「ちょこっとネットワーク研修会」に参加しての感想

研修会に参加してよかったと自分が思うと、人にも勧められる。自分が体験したことで地に足のついた活動につながる。今まではネットワークがあると聞いても、実際に使ってみないとどう使ってよいかはわからない。自分が体験してよかったと思った。これが広がっていけばよいと思う。研修時にはショッキングな内容もあったが、高齢者虐待については虐待する方も人には言えなくて虐待している部分、色々葛藤があり、それも言えなくて・・・、家族が大変だろうと感じた。児童虐待でもそうであるが、高齢者虐待ではそれ以上に周囲に触れにくい。今回の研修を受けることで、高齢者の体のアザを作ってもどの部分のアザであるかによって、自分で転んでついたのか、虐待によるものかは違うことを具体的に教えてもらい、なるほどと思った。高齢者虐待についてはいっぱい勉強させてもらった。

②研修は日々の地域活動に活かしていますか

研修会で学んだことは、民生委員だけでできることは限られているということ。ただ見守りする、気をつけるくらいであるが、ケアマネジャーや役所の方などと一緒にグループワークした時に、ああ、やっぱり色々な方がそれぞれの立場で心配している人がいること、しかし、踏み込めていない状況があることを知った。研修会に認知症の人に来てもらったときに、特別なことではなく、認知症だから何もできないのではなく、今持っているものを最大限に活かしていかなければならないなどと、そのことを学ばしてもらった。それからは、色々な方に出会ったときに、構えるのではなく、自然に、今、その人にある部分を、お付き合いさせてもらったらいいのだと。研修会で学んだことが、今、色々な方とお付き合いするときに少し勉強して良かったなど思っている。

③どんな西区になったらいいと思うか、「ちょこっとネットワーク」の今後の課題

私は民生委員の高齢者部会に所属している。そのために研修では連続して参加し、学ぶことができたが、民生委員の総ての人に学んでもらった方がよいと思う。自分の目で見て、自分の耳で聞いて、心がほぐれることがわかる。市の人、ケアマネジャーと付き合っ心解れていく部分があるので。

(6) F氏(男性、所属：デイサービス)

①「ちょこっとネットワーク研修会」に参加しての感想

デイサービスの代表として研修会に参加したので、デイサービスの立場での感想として述べたい。認知症のとりくみでは個人的には認知症のことを松本先生に聞いたことや、当事者の人の話しが聞けて、デイサービスの場でも活かせる学びとなった。

②研修は日々の地域活動に活かしていますか

認知症については避けて通れないことであり、とても勉強になった。考えさせられた。地域包括支援センターとの繋がりが大切であり、高齢者虐待、身体的虐待をデイの場面で発見することもことがある。高齢者虐待では加害者が被害者でもある。孤立死も切実な問題であり、うちのデイサービスでも半数近くが独居であり、孤独死を身近に感じた。

③どんな西区になったらいいと思うか、「ちょこっとネットワーク」の今後の課題

研修会の第一ステップで、肩肘張らずゆったりとしたところで連携し、いろんな機会に気さくに声をかけられる。それができる西区はいいなと思う。これからもこの活動を続けられることが、大切であると感じる。継続は力である。

3. 平成 23 年度の取り組みに向けて

3年間のネットワークづくりに向けての活動は、課題はあるものの、少しずつ顔の見える関係が着実にできつつあることが実感できた。今後は、いくつになっても、たとえ高齢になっても住みなれた地域で安心して暮らせる街づくりを目指すことを共通理解した。

今後の「ちょこっとネットワーク」の展開に関しては、これまでの活動・研修会を総括して広く参加者の希望・意見を集約した結果、平成 23 年度は「顔の見える関係をもっと身近なものに」をキャッチフレーズとして掲げ、以下の 3 つの目標を挙げることになった。

- ①さまざまな視点で広く市民に対して情報を発信する。
- ②高齢者分野だけでなく、他の分野の機関と連携して研修を企画し、協力者を増やす。
- ③協力者を増やすことで西区の実態を深く知り、課題をすくい上げていき、区の実態をさらに深く知ることにつなげる。

以上の 3 つの目標達成のために、平成 23 年度は西区在住の市民・支援者に研修対象を広げて 3 回の市民研修を開催することになった。研修の素案を以下に示したが、日程や内容についての詳細は調整中である。これまで以上に研修に対する意見やアイデアを募集し、有意義な実りある研修会にしていき、活動を推進していく。

第 1 回目：平成 23 年 6 月 30 日（木）14:00～16:30

テーマ：「高齢者の自殺を予防する(仮)」

第 2 回目：平成 23 年 9 月頃

テーマ：「障害者を子どもにもつ親の高齢化（仮）」

～障害者の高齢化、またその親の高齢化に関係する問題について考える～

第 3 回目：平成 24 年 1 月頃

テーマ「障害者をもつ家族の高齢化を支えるために（仮）」

DVD のエンディングテーマ曲

「人として」

作詞/作曲/歌：梅原司平

人として生まれて 人として生きる
幸せになるために 人は生まれてきた
巡り合い紡いで 育んだものは
哀しみや涙ではなく いつも変わらない愛
心まで捨てないで 君の明日が泣いている
優しさを止めないで 愛の形を支えて

この国に生まれて この国に生きる
喜びをわかちあい 人はここまで来た
限りある生命に 刻まれたものは
憎しみや怒りではなく いつも変わらない愛
心まで捨てないで 君の明日が泣いている
優しさを止めないで 愛の形を支えて
心まで捨てないで 君の明日が泣いている
優しさを止めないで 愛の形を支えて

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織の
あり方と見守り基準に関する研究
〈大阪府堺市南区地域包括支援センター〉

—平成 20 年～22 年度調査(3 年間)報告—

目 次

研究組織	1
第1章 調査地区の概要	2
第2章 地域見守り組織の活動状況	5
1. 地域見守り組織における 2010 年度の取り組み	
2. 本研究における 2010 年度の調査	
3. I 校区における「お元気ですか訪問活動」の調査	
4. 南区パラバルーン会議での取り組み	
第3章 本研究における 3 年間の取り組み	18
第4章 見守り組織育成にむけて 3 年間の取り組みの評価	25

平成 22 年度 分担研究報告書《NO 4》
分担研究者 川井太加子 山本美輪 前原なおみ

平成 23(2011)年 3 月

研究組織

〈本報告書作成者〉

分担研究者：川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授）

前原なおみ（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

山本美輪（藍野大学医療保健学部 准教授）

研究協力者：湯本尊敏（堺市南区役所地域福祉課 課長）

下熊京子（堺市南区地域包括支援センター 所長）

山崎智子（堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士）

淡路深雪（堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士）

野村憲子（堺市南区地域包括支援センター 社会福祉士）

研究組織構成メンバー

研究代表者：津村智恵子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長）

分担研究者：臼井キミカ（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）

河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科 教授）

和泉 京子（大阪府立大学看護学部 准教授）

山本 美輪（藍野大学医療保健学部 准教授）

大井 美紀（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授）

川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授）

金谷 志子（大阪市立大学大学院看護学研究科 講師）

栢田 聖子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

上村 聡子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

前原なおみ（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

鍛冶 葉子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

第1章 調査地区の概要

1. 調査地区の概要

1) 調査地区の状況

市町村名	堺市南区		
市町村の概要	泉北ニュータウンを中心とした市街地とその周辺に集落地などがある。ニュータウンとしては全国最大であり、入居後 40 年を経過している。現在は高齢化が進み、高齢化率が 23% を超える住区が多くなっている。また、核家族化による人口流出が進み、一人暮らし高齢者世帯の増加に伴い、見守り活動などの推進が求められている。		
人口 (2010年12月末現在)	157,656人	65歳以上人口	36,536人
市町村(政令市は区)の包括支援センター数	7か所(各区役所に1ヶ所)		
包括支援センターの専門職	常勤 13人 内訳: 所長(保健師)1人、主任ケアマネージャー2人 社会福祉士3人、予防担当7人 非常勤 4人 内訳: 予防担当1人、事務職員3人 アルバイト 2人 内訳: 予防担当2人		
見守り組織の名称	「地域のつながりハート事業」(小地域ネットワーク活動推進事業) 「お元気ですか訪問」活動		
見守り活動の状況	地区別に記入		

- 堺市は各区の地域包括支援センターが中心になり、住民主体の地域見守りネットワーク活動推進委員による活動システム構築に向け奮闘している。

2) 調査地区の位置

堺市南区は泉ヶ丘地区、梅・美木多地区、光明池地区の3つの丘陵部からなり、各地区は日常生活エリアがある20の小学校区から構成されている。

泉ヶ丘地区は、宮山台、竹城台、三原台、若松第、茶山台、高倉台、晴美台、槇塚台など、最も古くから開発された地区で、面積、人口が他の地区より大きく、商業・業務地として泉北ニュータウンの中心的地区に位置し、付近には私立の高校や大学がある。

梅地区は、桃山台、原山台、庭代台、御池台が位置し、区役所、警察署、文化会館や敷物団地や郊外型商業施設などを擁している。

また、光明池地区は、赤坂台、新檜尾台、鴨谷台、城山台などが位置し、福祉施設が集まった障害者福祉エリアのほか、体育館、大阪府立母子医療センター、運転免許試験場などがあり、光明池駅前には商業施設も集積している。

3) 交通機関

泉北ニュータウンの中央部に泉北高速鉄道が横断しており、「中百舌鳥駅」から「和泉中央駅」までの143キロメートルを約16分で結んでいる。また、バス路線は、鉄道各駅を起終点として各住区内を運行

するように整備され、65歳以上の多い区域には、路線が張り巡らされ、運行本数が多く、バス停も多く設置されている。

幹線道路は、泉北1号線、泉北2号線がニュータウンを横断・縦断して市の中心部と直結しており、堺泉北環状線がニュータウンを取り囲むように走っている。

4) 地域包括支援センターの活動概況

地域包括支援センターが総合相談として高齢者の保健・医療・福祉に関わる生活上のニーズや不安・心配事を受け付け、必要に応じて訪問による相談や情報提供、保健福祉サービスの調整を行っている。その件数と年間の推移を表1、2、図1、2に示した。

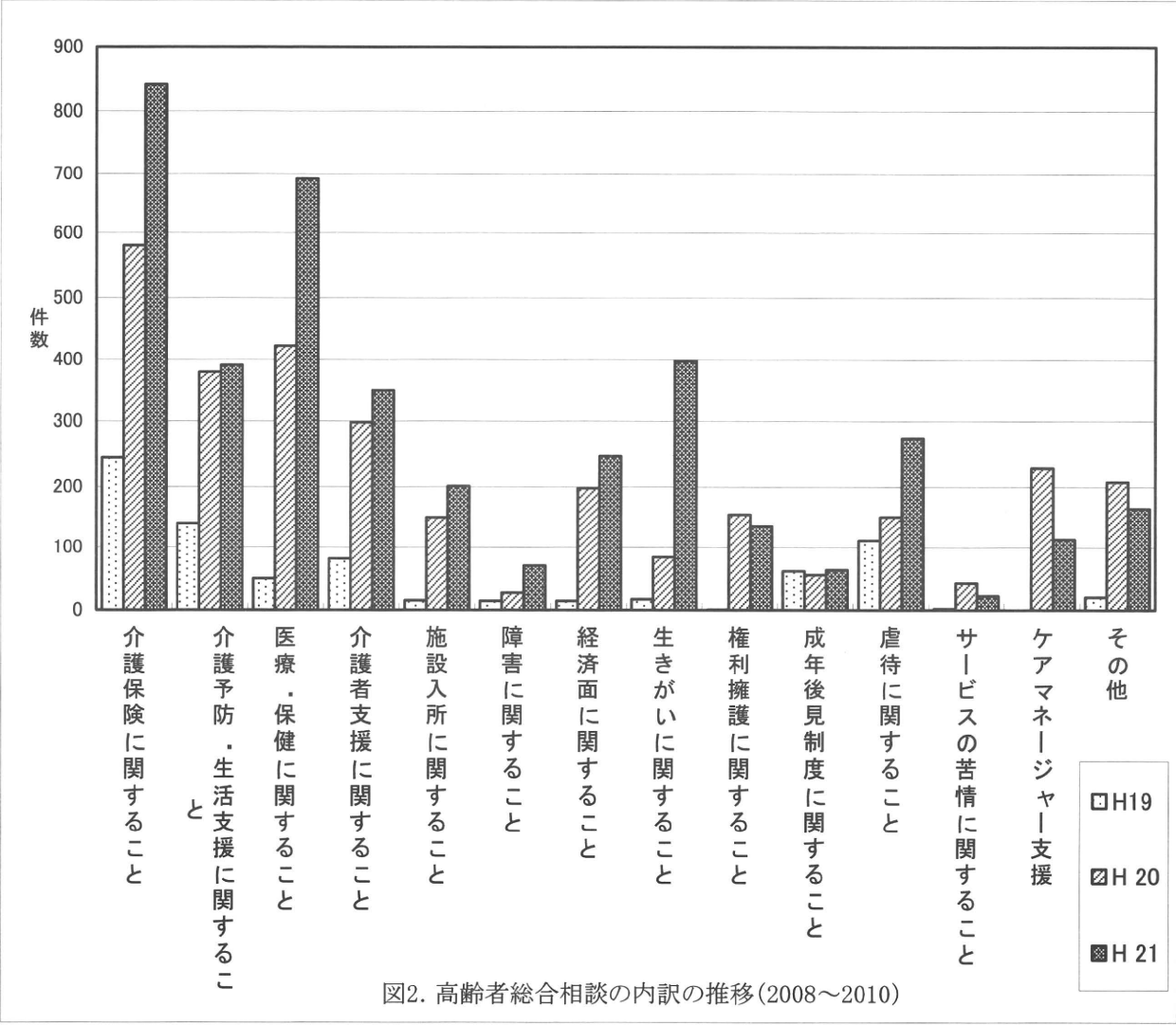
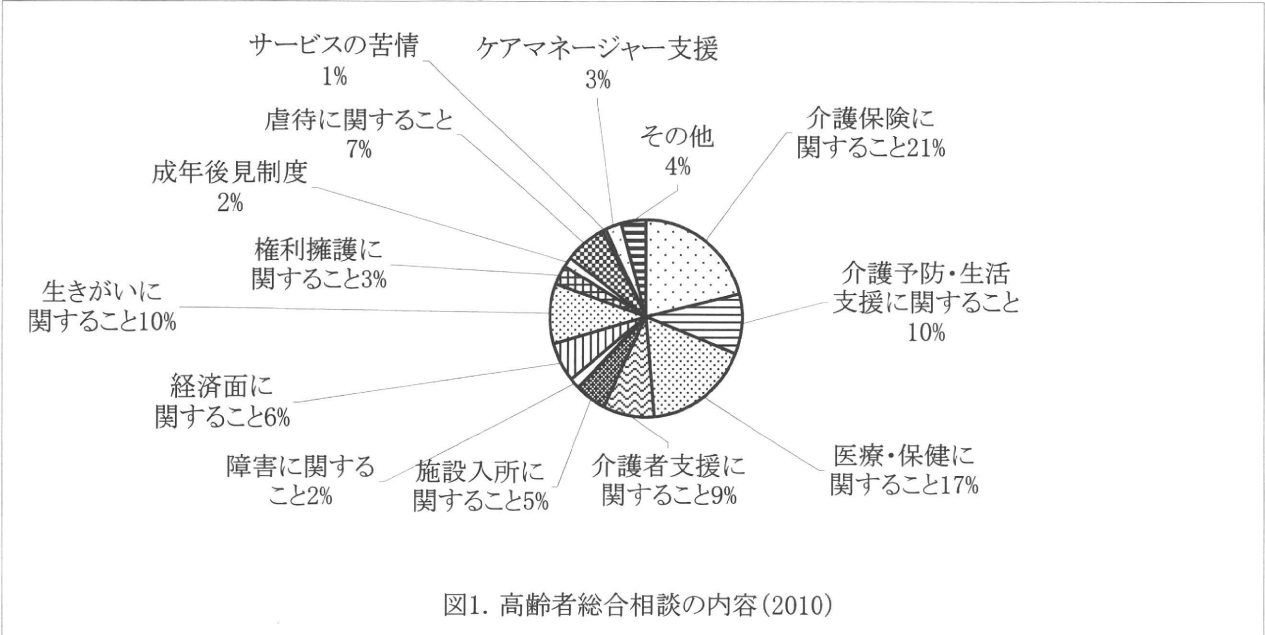
地域包括支援センターによる高齢者総合相談件数は、2007年度から2010年度は新規・再相談とも増加している。相談内容では介護保険に関すること、介護予防、医療に関することは、3年間で増加傾向を示しているが、サービスの苦情、ケアマネージャー支援に関することは減少している。

表1. 地域包括支援センターによる高齢者総合相談

	年度	2007	2008	2009	2010
相談件数	新規	239	273	440	878
	再相談	59	86	1586	2844
	合計	298	359	2025	3722

表2. 地域包括支援センターの高齢者総合相談の内訳

	相談目的	2008	2009	2010
		介護保険に関すること	245	580
2010 年度	介護予防・生活支援に関すること	140	379	391
	医療・保健に関すること	49	423	692
	介護者支援に関すること	81	298	348
	施設入所に関すること	15	150	201
	障害に関すること	14	27	70
	経済面に関すること	14	198	247
	生きがいにに関すること	17	84	398
	権利擁護に関すること	1	155	136
	成年後見制度に関すること	61	55	63
	虐待に関すること	111	151	274
	サービスの苦情に関すること	2	42	22
	ケアマネージャー支援	—	229	113
	その他	20	208	165
	合計		770	2979



第2章. 地域見守り組織の2010年度の活動状況

1. 地域見守り組織における2010年度の取り組み

1) 地域ケア会議等の開催状況と課題

堺市南区では、「住み慣れたところでみんなと一緒に支えあって暮らし続ける支援」を見守り活動の視点と定め、各種会議の横のつながりを深めることを目的に会議等が開催されている(表 1)。研修は単発ではなく次の活動につながるよう工夫し、民生委員高齢部会の研修を基に、見守り活動を実施している関係機関、企業、施設、市民、ボランティアを対象に企画運営実施している。校区からの要望等もあり、ケアマネージャーと民生委員との交流などを図ることで、地域活動の理解やケアマネージャーの動きを知ることができ、活動を通じて互いの距離は近くなった。

2010年度は、在宅介護支援センターと協力しながら6校区で民生委員会が行われ、9校区で地域ケア会議が開催された(平成 23 年 1 月末現在)。しかし、実施方法などは開催回数も含めて主催者任せになっている現状があり、会議の継続は、住人の意識や地域の成り立ちに大きな違いがあるため、主催側の力量が問われ、意識的に地域への働きかけをしないと継続が難しいという課題がある。

また、2010 年 12 月に民生委員改選があり、40 名以上の新しい民生委員が選出された。そのため、新たな関係づくりを必要とする校区も発生し、顔の見える関係づくりが必要である。

2) 対策コア会議の開催

2010 年度は、「孤立させない地域をめざして」をスローガンに包括・地域福祉課・区社協を中心にまちづくり基金で様々な事業を協働実施した。各事業(パラバルーン会議・講演会・リーフレット作成等)実施において、在宅介護支援センター・民生委員高齢者部会・民生委員生活福祉部会等に協力を依頼し、各 1~2 回の検討会を実施した。

また、初動期から、意識的に顔の見える関係を重視した会議は、各人の関係性の深まりと事業への関心の高さにつながった。

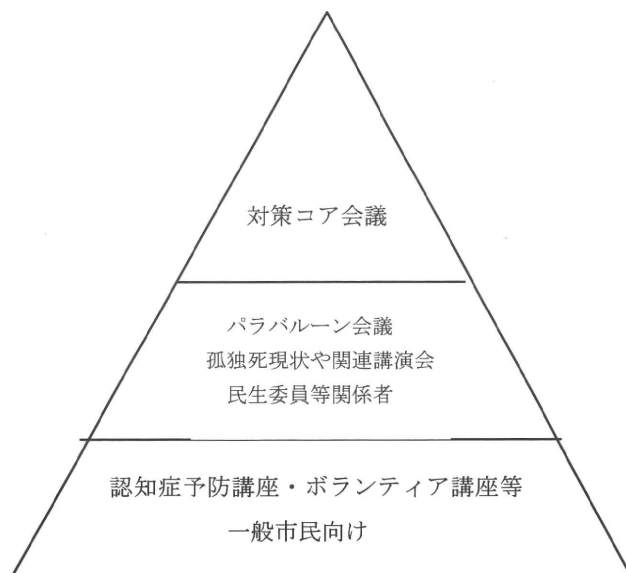


表 1. 地域ケア会議等の開催状況(2011年2月19日現在)

校 区	年 月 日			内 容
	2008年度	2009年度	2010年度	
A 校区	定例地域ケア会議開催 (年3回)			各関係機関から情報共有
			11. 24	民生委員・ケアマネとの交流会
B 校区	6. 12		2 月	民生委員改選における顔の見える関係づくり
C 校区		6. 15	—	
D 校区		6. 19	7. 13	地域ケアシステムの継続にむけて、事例の振り返り
		10. 7		
E 校区		4. 16	7. 18	地域の困りごとから地域課題を発掘
		6. 21		
F 校区		7. 3	—	
		10. 19		
G 校区		月1回民生委員会のおと	7. 28	ネットワーク表の活用について ケアマネ・民生委員・関係機関交流会
H 校区		9. 3	4. 22	民生委員会に参加 情報提供
		11. 15	1. 20	民生委員改選における顔の見える関係づくり
		3. 18		
I 校区		11. 9	7. 29	地域ケア会議の振り返り 課題共有と今後の取り組み
		3. 18		
J 校区		11. 26	12. 22	民生委員改選における顔の見える関係づくり
K 校区			4. 24	民生委員との顔の見える関係づくり 情報提供
L 校区			10. 18	個別事例を通じて支援の共有を図る
M 校区			12. 2	孤立死における振り返り会、情報共有
N 校区			1. 20	民生委員との顔の見える関係づくり 情報提供
O 校区			2. 19	民生委員との顔の見える関係づくり 情報提供

※太字は地域ケア会議開催

3) 関係機関向け 南区パラバルーン会議(高齢者福祉部会・生活福祉部会合同)

第1部 講演会

内 容: 無縁社会でおこりうる課題 ～誰もが社会から置き去りにされない方法を考える～

講 師: 川井太加子

時 期: 2010年10月12日 13:30～15:30

場 所: 堺市立図書ホール

参 加 者: 生活福祉部会 16校区 21名 高齢者部会 17校区 30名

校区委員長 5名

関係機関 17名(地域福祉課、生活援護課、保健センター、在宅介護支援センター、地域包括)

第2部 地域活動(3校区)報告

内 容: 校区で行った特徴的な活動と課題の共有

4) 市民向け啓発講演会 「孤立させない地域づくりフォーラム」

日時:2011年1月26日 午後

参加者:南区の地域支援関係者・機関、関心のある市民 40 機関 151 名

(1)内容:「ストップ！孤立死」～孤立させない地域づくりのため～

講師:中部学院大学講師 新井康友先生

(2)私の提言 ①地域の立場から ②相談支援機関の立場から

5) 個別支援における事例の振り返り

○孤立死における関わりの振り返り会議

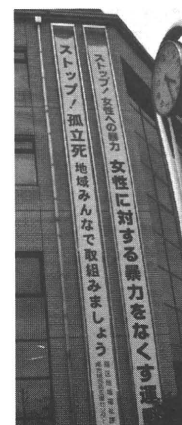
○精神疾患をもつ独居高齢者の地域見守り支援について

6) 見守り啓発ちらし等について

孤立死予防対策として、広報みなみの在宅介護支援センター便りに「孤立死を防ぐ」7回シリーズを掲載した。また、広報11月号に孤立死予防チラシを折りこみ全戸配布(写真添付)すると共に区役所に懸垂幕「ストップ！孤立死 地域みんなで取り組みましょう」を2回設置した(11月、1月)。

2009年度に引き続き、エンディングノート5000部を増刷した。また、リーフレット「孤立させない地域を目指して」を、地域活動や防火予防訪問時に配布してもらおう保健センターや南消防署に協力依頼した。

高齢者の相談機関窓口リーフレット(5000部)は、4月から各関係機関・相談窓口配布を行った。



7) 孤立死の集計

地域の各会議に出席し、孤立死の現状報告と孤立死集約票の協力と依頼を行い、民生委員・行政等の協力のもと孤立死の集約を実施した(表2)。

また、22年3月に堺市健康福祉局発行の「孤立死発見・対応・予防のてびき」が、すべての民生委員に配布されたことも重なり、孤立死に関してより具体的な情報提供等を行うことができた。

表2. 孤立死の集計の推移

	2008年度 (2009年2月28日)	2009年度	2010年度 (2011年3月10日現在)
男性	17	14	17
女性	9	5	10
不明	0	0	1
計	26	19	28

2. 本研究における2010年度の調査

1)見守りチェックシートの施行

- (1)目的:高齢者のセルフ・ネグレクトを防ぐ地域見守り組織のあり方、および見守り活動において活用しやすい判断基準の検討を行なうこと
- (2)対象者:地域で見守り活動を行っている民生委員で、パラバルーン会議に出席した73名
- (3)期間:2010年10月12日
- (4)方法:南区パラバルーン会議開催時に見守りチェックシートの使用目的を説明したのち配布した。パラバルーン会議後に回収箱を設置し、民生委員により回収した。
- (5)実施場所:堺市南図書館
- (6)調査内容:見守りチェックシートおよびチェックシート使用後の感想(研究代表者の項を参照)
- (7)分析方法:見守りチェックシートの各項目について記述統計量を求め、分析した。また自由記載事項の検討を行なった。
- (8)倫理的配慮:甲南女子大学看護リハビリテーション学部研究倫理委員会の承認を得ている

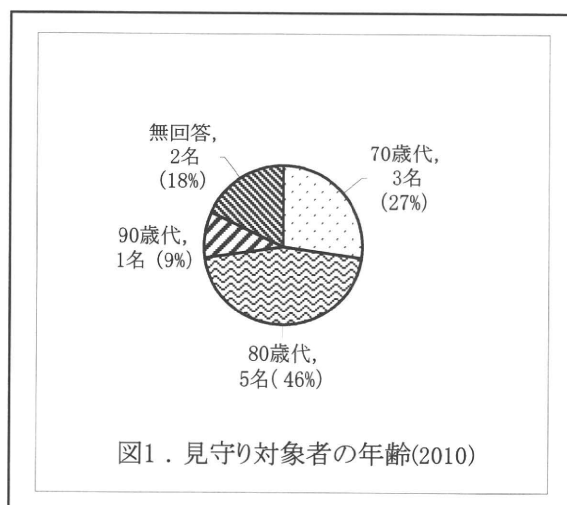
2)高齢者の概要結果

- (1)回収数:見守りチェックシートの回収は11枚であった。

- (2)見守り対象者の基本属性

①年齢層

見守りを必要とする対象者の年齢層は70歳代～90歳代であり、80歳代が最も多かった(図1)。



②世帯の状況

2010年度、見守りを必要とする対象者の73%は一人暮らしで、家族と同居の者や高齢夫婦も対象に含まれていた(表3)。

世帯項目	(人)	n=11	%
一人暮らし	8		73
家族と同居	2		18
高齢夫婦	1		9
子と二人世帯	0		0
親子	0		0
合計	11		100

③身体的不自由の有無

見守り対象者に、身体の不自由な者はいなかった。

④緊急連絡先の有無

見守り対象者のうち緊急連絡先が明確であったのは7名(64%)で、見守り対象者との関係はすべて子どもであった。残りの4名(36%)は無回答であった。また、自由記載として「緊急連絡先はあるが、私たちには知らされていない」と意見があった。

⑤見守り対象者について気になること

見守り対象者の気になることを「なし」と回答したのは3名(27%)で、8名(73%)は無回答であった。

⑥移動

見守り高齢者の移動方法は、歩行5名(46%)と最も多く、杖歩行2名(18%)、車椅子1名(9%)、自転車1名(9%)、無回答2名(18%)であった(表4)。

表 4. 移動状況 n=11

世帯項目	(人)	%
自立歩行	5	46
杖歩行	2	18
車椅子	1	9
自転車	1	9
無回答	2	18
合計	11	100

3) チェック項目の結果

①見守りチェックシート「生活の様子」の単純集計

見守りチェック項目「生活の様子」12項目の単純集計を行った。

その結果、「はい」と回答のあった項目は、「2. 家や家の周囲が異常に散らかっている」「8. 無気力または無表情、意欲・生気が感じられない」「12. 会話が通じにくいと感じる」であった(表 5)。

表 5 見守りチェックシート「生活の様子」

n=11

		はい	いいえ	わから ない	無回答	合計
生 活 の 様 子	1. ポストに郵便、新聞がたまっている。 カーテン・雨戸が閉まりっぱなし	0	10	0	1	11
	2. 家や家の周囲が異常に散らかっている	1	9	0	1	11
	3. 夜遅くなっても家の明かりがつかない	0	10	0	1	11
	4. 持病が悪そうだが、通院している様子がない	0	9	1	1	11
	5. どなり声、泣き声がする。不自然な傷・アザがある	0	9	1	1	11
	6. 最近姿を見ない。物音がしない	0	10	0	1	11
	7. 不審者が出入りしている	0	9	1	1	11
	8. 無気力または無表情、 意欲・生気が感じられない	1	8	1	1	11
	9. 近所の人とのトラブルが多くなった	0	9	1	1	11
	10. 服装が以前よりも乱れている	0	10	0	1	11
	11. ガス、暖房の消し忘れなど 火の不始末が増えている	0	8	2	1	11
	12. 会話が通じにくいと感じる	2	8	0	1	11

②見守りチェックシート「観察・会話」の単純集計

見守りチェック項目「観察・会話」13 項目の単純集計を行った。その結果「はい」と回答のあった項目は「14. 転倒や事故にあった」が3件と最も多く、次いで「21. 家事ができていない」2件、「17. 最近転居・長期入院から退院した」「24. 正月3が日は誰とも過ごしていない」1件であった(表6)。質問によって無回答や「わからない」の回答も見られ、「25.眠れない、不安や心配事などがある」は5名の者がわからないと回答していた。

表 6. 見守りチェックシート基本編 観察・会話

n=11

		はい	いいえ	わからない	無回答	合計
観 察 ・ 会 話	13. 自分で家内を移動できない(杖・車椅子を含む)	0	8	2	1	11
	14. 転倒や事故にあった	3	4	3	1	11
	15. 閉じこもり(外出週1回以下)、買い物ができない	0	9	0	2	11
	16. 最近頼りになる家族の死(2ヶ月間)に遭遇	0	8	1	2	11
	17. 最近転居、長期入院から退院した	1	8	0	2	11
	18. 同居でも毎日本人弁当購入	0	7	0	4	11
	19. 屋外に長時間一人でいる	0	9	0	2	11
	20. 食事が摂れていない	0	8	2	1	11
	21. 家事ができていない	2	5	2	2	11
	22. 必要な福祉サービスを中断・利用していない	0	8	2	1	11
	23. 家族との接触少ない	0	8	1	2	11
	24. 正月3が日は誰とも過ごしていない、一人だった	1	6	2	2	11
	25. 眠れない、不安や心配事などがある	0	4	5	2	11

③見守りチェックシート「認知症を疑うサイン」の単純集計

見守りチェック項目基本編13項目の単純集計を行った。その結果、「はい」と回答のあった項目は、「27. よく道に迷い帰宅できない、歩き回り不審がられる」「28. 鍵などの大事なものの置き忘れ、しまい忘れが多い」「30. 日時を間違う、約束を忘れている」であった(表7)。

質問項目のすべてにおいて無回答が見られた。また、自由記載では「見守っているが娘さんがやっているので、チェック項目はすべてわからない」と意見があり、外からの見守りでは回答できない質問がふくまれていた。

表7. 見守りチェックシート「認知症を疑うサイン」

n=11

		はい	いいえ	わからない	無回答	合計
認知症を疑うサイン	26. 服装や神野手入れに構わなくなった	0	6	2	3	11
	27. よく道に迷い帰宅できない、歩き回り不審がられる	1	7	1	2	11
	28. 鍵などの大事なものの置き忘れ、 しまい忘れが多い	1	4	3	3	11
	29. ガス、暖房の消し忘れなど火の 不始末が増えている	0	5	3	3	11
	30. 日時を間違う、約束を忘れている	1	5	3	2	11
	31. 計算ができない(財布が小銭でいっぱい)	0	6	2	3	11
	32. 通帳・財布などを盗まれたと騒ぐ	0	8	1	2	11
	33. 夜中に平気で外出・活動する。 近隣のチャイムをよく鳴らす。トラブルメーカー	0	7	1	3	11
	34. ゴミの出し方がわからない。 ゴミの口をきっちり結べない	0	6	2	3	11
	35. 同じ食品・品物を何度も買っている。 薬の飲み忘れ・飲みすぎが目立つ	0	5	3	3	11
	36. 腐ったものと新鮮なものの区別がつかない	0	7	2	2	11

④見守りチェックシート「うつ状態」の単純集計

見守りチェック項目基本編13項目の単純集計を行った。その結果、どの質問にも8名(72%)が無回答であった。「はい」と回答のあった項目は、「37. 毎日の生活が充実していますか」「38. これまで楽しんでやれていたことが、今も楽しんでできていますか日時を間違っ、約束を忘れている」「39. 以前は楽にできていたことが、今はおっくうに感じられますか」「自分は役に立つ人間だと考えることができますか」であった(表 8)。

表 8. 見守りチェックシート基本編 うつ状態

n=11

		はい	いいえ	わからない	無回答	合計
うつ状態	37. 毎日の生活が充実していますか	3	0	0	8	11
	38. これまで楽しんでやれていたことが、 今も楽しんでできていますか	2	1	0	8	11
	39. 以前楽にできていたことが、 今はおっくうに感じられますか	1	2	0	8	11
	40. 自分は役に立つ人間だと考えることができますか	2	1	0	8	11
	41. わけもなく疲れたような感じがしますか	0	3	0	8	11

⑤今後の対応について

- 「今後どのように対応したいと考えますか」の質問に対して4名の回答があった。
 - ・ 普段どおり、あいさつや声をかける 2名(月1回、頻度不明)
 - ・ 訪問したり、電話をかけて様子を見る 2名(月2回、月1回)
- 「見守り対象者について気になること」の質問に対して以下の自由記載があった。
 - ・ 見守りを行っているが、本人が包括支援センターへ電話している
 - ・ 訪問をやめて欲しいと連絡があり、以降電話連絡に変更している。電話した時は「嬉しい」といわれた
 - ・ 息子の7回忌までと張り切っているが、その後は心配です
 - ・ 1階にお住まいで、声をかけていきたい
 - ・ 話し相手がほしいようで、時々訪問して話し相手になって関わっていきたい

4) チェックシートの評価と課題

①見守り対象者の属性について

見守り対象者は70~90歳代で、一人暮らしがもっとも多く7割を占めていたことから、同居家族のいない高齢者のほうが見守り対象者になりやすいというこれまでの報告と同様の傾向が示された。また、見守り対象者に身体的不自由な人はいなかったことから、堺市南区では身体的不自由な高齢者は介護保険等の介入があり、見守り対象になりにくいことが示唆された。

緊急連絡先があると回答したのは7名(64%)であり、全員が見守り対象者の子どもであった。しか

し、無回答が36%を占め、「緊急連絡先はあるが私たちには知らされていない」との自由記載もあったことから、個人情報保護の観点などの問題が包括されている可能性はあった。また、見守り対象者について気になることは、27%は「なし」と回答し、残りの73%は無回答であった。

堺市南区では、地域包括支援センターと協力し、訪問等の直接家庭に入って観察を必要とする対象への関わりは、民生委員等から専門職へ引き継がれており、役割分担がなされている。そのため、見守りチェックシートの質問の多くは、回答しにくい、または「わからない」と回答しやすい項目が含まれていた。

②チェック項目について

第3章で、チェックシートの評価とともに述べる。

3. I 校区における「お元気ですか訪問活動」の調査

1) 目的

堺市南区 I 校区で校区福祉委員会が中心となって取り組んでいる「お元気ですか訪問活動」の状況から、高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤立死を防ぐための地域見守り組織のあり方について検討を行う。

2) 方法

(1)調査対象者と方法

本研究は、2010年3月18日にフォーカスグループインタビューを実施したものである。インタビュー時間は60分程度で、参加者15人に、「お元気ですか訪問活動」の①活動の構成 ②訪問の導入 ③活動の頻度 ④緊急時の対応 ⑤訪問以外の対応について、自由に語ってもらった。研究対象者は、民生委員、校区福祉委員、ボランティアなどで、会場は活動の拠点であるW公民館で行った。調査対象者には、口頭で本研究の趣旨、目的と方法を説明し、同意を得た。また、甲南女子大学看護リハビリテーション学部研究倫理委員会の承認を得ている。

(2)分析

逐語録から、①活動の構成 ②訪問の導入 ③活動の頻度 ④緊急時の対応 ⑤訪問以外の対応について抜き出しまとめた。

(3) 結果

I 校区における「お元気ですか」訪問活動の状況を示した(表 9)

表 9. お元気ですか訪問の状況

構成	ボランティアを交えて民生委員主導で展開
	民生委員 10 名、ボランティア 10 名、役員が 8 名ぐらい
	福祉委員長、老人会の会長、福祉委員の副会長と自治会の人
	40 名ぐらいが登録。実質活動しているのは 20 名ぐらい
	民生委員がボランティアの人選をしている
	民生委員が中心でマッチングをしている。 対象者が男性のときは男性を含めて行うなど配慮をしている。
	班を作り、班長が自分のメンバーを把握
	役員会や毎月の定例会のときに、一人一人の様子を聞いている
訪問の導入	この方に訪問活動が必要という判断があればボランティアさんに声かけ
	初めは民生委員 1 名とボランティア 1~2 人ぐらいで訪問
	かならずペアで組織としてやっている
	問題があれば共有して発表もできる
	お互いに一対一より、3 人位で話をするほうが良い
	たんぼぼの会に来れなくなった人を訪問
活動の頻度	ボランティアは多い人で 4、5 件持っている
	少ない人でも 1 件は定期的に行っている
	近くの方 1 件
	民生委員の方と 4 件訪問
	月 1 回訪問、1 回は電話
	訪問活動も民生委員と一緒に 2 回
緊急時の対応	第一通報者が、独り暮らしの場合、民生委員に連絡してから対応する
訪問以外の対応	あそこの家が電気消えた(ついた)から元気にしているというような情報提供をしている
	朝起きたらカーテンを開けてもらい、夜には閉めてもらうように依頼して見守っている
	お風呂の際、電気は点灯しているので、それで安否確認をしている